



日本GAP

No. 21

仙台支部報

IGAP-JAPAN SENDAI INFORMATION

草	原	1	總會前夜の出来事	佐藤喜代子	3
テレパシー開発一考	太田節子	2	GAP新時代	笠原弘可	4

草 原 — 新年に思う — 笠原 弘可

想念は変化の源泉

想念によって、体調が左右されるといふのは、GAP会員に限らず世間一般周知の事実である。ストレスという言葉を知らぬ人は少ないだろう。心身症という言葉も頻繁に使われるようになった。しかし、想念によって、環境や運命まで変えることが出来るといふ考えは、まだ浸透していない。

アダムスキー氏は、徹頭徹尾、想念の重要性を説き続けた。一部の偉大な学者達もそれに気付き、本に著している。市販の書物にも少しづつ優れたものが出てはいる。しかし、一見面白そうでも非常に分裂した内容のものもあるので気を付けねばならない。

宇宙的想念の実践

昨年、この想念の応用に傾注した。いろいろ興味深い現象があり、想念の力の大きさに改めて驚異を感じた。私なりに感じた点をまとめてみると、次の通りである。

- ・ 良き想念は良き結果をもたらす。
- ・ 効果の鍵は、力みではなく確信である。
- ・ 確信を持続するには正論を反覆理解すること。
- ・ 暇さえあれば、意識を意識することが大事である。

殆ど、GAP内では言い尽くされ、久保田先生が以前から指導されていることなので、目新しい言葉はない。が、もう

一つ、個人的性質として矯正すべきことがあった。

・ 反省の目的は、進歩であり、気にすることではない。

・ 自省力の強いひとは、下手をすると一つの欠点や失敗に固執して、かえって束縛されることがある。反省は大いに結構なこと、自己想念の分析と反省がなければ進歩しない。自己の短所を知ったならば、その短所とにらめっこしていても始まらない。逆に宇宙的想念を大いに反覆して全身にしみこませていると、いつの間にかマイナス想念は消えていくはずである。

以上のようなことを確認しながら、反覆想念(ミラクル・ワード)、イメージ法等を続けた。

マインドの抵抗

その結果、素晴らしく気力が充実し、宇宙的印象も湧き起るようになってきた。しかし、しばらくすると、イライラした想念や不安感が襲ってきた。なんだろうと、疑問に思ったがすぐ原因は判明した。「生命の科学」第九課にあるとおりの習慣細胞の抵抗が始まったのだと思った。

一月一日現在、まだまだ我が体内には元気のいい習慣細胞が宇宙的細胞と一緒に正月気分を味わっている。来年は、ぜひとも、純正宇宙的細胞製肉体で、正月を迎えたいものである。

かせる。「中身が何であるか、分かるのが普通なのだ」と。余計な力を抜き、リラックスする。すると、なんとなく封筒の中身が分かるような気がしてくる。一定時間内に答えを出して、皆の前でそれを発表しなくてはならないということに對する一種の「焦り」も感じなくなる。答えが分からなければ分からないでいい。「今日は、たまたま分からなかっただけのこと。この次はきつと分かるだろう」とそう思うことにした。それ以来、幾分テレパシー練習の結果が良くなったように思う。「それでは、テレパシー練習をします」という言葉を耳にした途端身構えすることもなくなった。「テレパシー」や「透視」の能力は、ある一定の人にだけ与えられたものではない。それらを行なえる人は、決して特殊な人ではなく、むしろ私にだって同じ能力が備わっているはずなのだ。現に時折、これぞまさに「テレパシー」と思われる体験をすることもあるのだから。

「テレパシー」「透視」「イメージ法」による物事の実現」等、全てに共通することであるが、「自分自身の持つ能力が心から信じる、疑わない」ということがとても重要なことのように思う。そしてそれは、簡単なことのように思われる。難しい。自分自身に内在する能力を心の底から信じたとき、それは取りも直さず内在する「宇宙の意識」にマイナドを委ねた時でもあるが、自然と「テレパシー能力」が発揮されるものだと痛感している次第である。

総会前夜の出来事

ブラザーズが総会を祝福!!

佐藤喜代子

私もGAP会員になりましてから進歩はさぞおきまして大分過ぎてしまいました。た。いつ頃からか、自分の日課が片付いた夜の七時すぎに少しの間ですが、二階の南側の窓から夜空を眺め、空模様をみたり星をみたりするのが習慣になっていました。気がすつきりしてとても良いもの星々が見え、空気が澄んだ夜など月や星々がくつきり思えてくるから不思議です。ほんとに近く思えてくるから不思議です。宇宙に分離はなく、地球も他の惑星と同様に宇宙空間にあり、法則のもとに整然と運行していることがわかります。さて、私は日本GAP総会に今回初めて参加させていただきました。仙台支部の笠原夫妻や太田さんと一緒に二十五周年記念総会に参加出来るということだと

ても楽しみにしておりました。七時二十五分頃のことです。いつものように二階の南側の窓から夜空を見ました。そうしますと、その瞬間、丁度窓から眺めて真正面、仰角約八十度のところに星が出ておりました。その星の三十センチ位斜めに星の三倍程の明るさの光が停止状態で、ピカー、ピカー、と二回光つたのです。あれ？なんだろうと思つてみると今度はその光より三十センチ位斜め下に停止状態でピカー、ピカー、ピカー、と三回光りました。これはUFOかも知れないと思ひ、光からは目を離さず階下にいる子供に知らせたりしていると又三十センチ位斜め下に三回強烈に光りました。ピカー、ピカー、と三回強烈に光りました。色は星と同じような色で星の三倍位の明るさでした。子供も急いで上つてきたのですが間に合いませんでした。文学者の斜めに出現した星は、自称天は南側の一番星として現れ、「宵の明星」と呼ばれ、時間とともに西の方へ移動し早朝には「明けの明星」と呼ばれる金星だということです。

あの強烈な光は、もしかしたら、たまに私が目撃したものの、GAP全体への金星のスペース・ピーパーからの祝福と激励のメッセージではなかったかと思われてなりません。

総会を目前にしての眼のさめるような感動的な体験でした。

GAP新時代

笠原弘可

日本GAPの最近の活躍には、目を見張るものがある。宇宙哲学と宇宙の意識のパワーが熟成し、新しい段階に入った。久保田先生の強力な活動と、御自身の厳しい自己研さんの賜と思われる。私どもも宇宙哲学の実践研究に入魂せねばと張り切っている昨今である。同時に今まで以上に、「対外活動」を展開する重要性を感じている。静岡支部、松山支部は対外活動のよきお手本として、各地方支部を牽引しておられる。両支部の活躍には心から拍手を送りたい。といつて、手を叩いているばかりでは何もない。仙台においても是非「UFO写真展」を開催して、一般の方に知らせると共に、カルマのある人を発掘したいものである。現在、準備を進めているが、色々と難問があり我が無力を嘆きたくなる。しかし、こういう時こそ前向きなプラスの想念を保ち続けることが絶対必要になってくる。そう考えると対外活動は絶対の自己訓練の場となる。ミラクル・ワード、ミラクル・イメージのコツは、強気、前向きな確信に満ちた精神状態を保つことにある。そのよう

にして、物事が実現するというのは、宇宙の法則の作用である。悲壮な決意や哀願に神が憐れみを感じ、救いの手を差し伸べてくれるわけではない。

全国にGAP活動の波紋が拡がっていかだろ。そうしなければなるほど我々は、宇宙的な発達が必要となってくる。大きなビルディング程深くしつかりした土台がある。GAP活動の土台とは、会員一人一人の宇宙的精神向上に他ならない。

お知らせ

第7回日本GAP
仙台・山形合同支部大会

◎日時 十一月二日(日)
午後一時～五時

今回は、仙台で開催されます。会場、プログラムは未定。翌三日、(文化の日)は、希望者による観光を予定しています。詳細は、本誌次号にて御案内致します。

編集後記

◎一年ぶりの支部報発行です。当支部副代表だった安藤澄雄氏が前号まで編集していました。氏はその後専門の勉強をされ写植のプロとして東京で活躍中です。

安藤氏の発展を心からお祈りする次第。◎現仙台支部副代表の太田節子さんの「テレパシー開発一考」はテレパシー開発を目指す際、非常に参考になると思われます。また、佐藤喜代子さんの「総会前夜の出来事」ですが、出来事は総会前夜に留まらず、その後連続してUFOを目撃されたとのこと。いずれまた、本紙に記事を寄せていただきたいと思っております。

◎昨年暮れに、転居により編者の住所が変わりましたので、御留意下さい。◎基本的には個人の研さんが重要と思われませんが、その上で多数の人々が一つの目的に向かって協力し合うことは、また格別に素晴らしいことです。なぜなら、創造主は無数の人間を造ったからです。◎コンタクト時代に突入したということ。少々の障害、失敗に挫けることなく宇宙哲学の実践研究に取り組み続けるなら、いつの日か、UFOに、スペース・ブラザーズに、そして、宇宙の意識にコンタクトしている自分を発見することでしょう。(K)

日本GAP仙台支部報 二十一号
編集発行人 笠原弘可
発行所 日本GAP仙台支部
仙台市五輪一丁目
十六・十四・一三〇六
(0222)
9510725
昭和六十一年一月二十六日発行